

# 電子書籍の基礎

~ちょっとおさらい~

2011年10月28日

イーパ部副部長 うえだうさこ

## 電子書籍ってなあに？

簡単言うと…… **デジタル化した形の読み物のこと。**

ブログだってメルマガだって pdf だって携帯小説だって、  
大ざっぱに言えば全部電子書籍。

もうすこし細かくいうと、  
読み物をデジタル化することで、持ち運べるかたちで、  
ネットが繋がっていないところでも読めるようにされているもの  
パッケージングされているもの。

電子辞書や、DS の読み物系ソフトを考えると解りやすくなるかも。

## 紙の印刷物と比較した電子書籍のメリット

- 文字の拡大や、画面の色を変えられる（白黒反転等）
- 音声読み上げができる（視覚障害者の方でもよめる。ながら読みできる）
- 動画、アニメーションの埋込み（ハリーポッターの世界？）
- 在庫切れがない
- 流通コスト削減（直接ユーザーに販売。）
- アクセスの取得、効果測定ができる（雑誌など。アンケート付加も可能）
- 場所をとらない（大量持ち運び・お部屋スッキリ。）
- テキスト検索が出来る（電子辞書は真っ先にデジタルが台頭）

## 紙の印刷物と比較したデメリット

- フォーマットがバラバラ（何台リーダーがいるの?!）
- 独自フォーマットだと倒産したら読めない？
- 横文字からきてるため、縦書きやルビ、禁則処理など、日本語の表示に弱い
- 見え方は制作側では制御できない（読む人のメリットが作り手のジレンマ）
- 機械が必要（破損、停電の問題）
- 価格設定（WEBなどの無料コンテンツとの垣根？）
- 著作権の保護（コピー）
- 玉石混淆（良いのも悪いのも同じ並び）
- 読者へのアプローチ、販促が難しい（じゃあその場で買う、ができない。）

# 電子書籍はどんな風にできているの？

構成するのはこの二つ

## ●デバイス

電子書籍を読むための環境

**Kindle、Reader、GALAPAGOS** などの専用デバイスや

**iPad、ケータイ、スマートフォン、パソコン**などの汎用デバイス

## ●コンテンツ（文字系・雑誌系）

**新聞、雑誌、小説 etc** の文字や画像のコンテンツデータ

**デバイスにコンテンツ**を入れて読む、という形

## デバイス（閲覧環境）は2パターン

◆専用デバイスは、データを入れるだけで閲覧できる（ゲームと似てる）

（Eink）Kindle、Sony Reader、nook

（液晶）Kindle Fire、Sony Tablet、GALAPAGOS

※本を読むだけでなく、web ブラウジングなど、汎用的な使い方も多少できる。

◆汎用デバイスでは、閲覧アプリケーションまたは独立起動型

・電子書籍閲覧アプリケーションにデータを読みこむ

iPad、iPhone：iBooks、i 文庫 HD、Kindle、CloudReader、Kinoppy、stanza

パソコン：Adobe Digital Editions、EPUBReader（Firefox アドオン）

・独立起動型のアプリケーション

iPad、iPhone：元素図鑑、WIRED、Alice in Wonderland

パソコン：AIR アプリケーション（Times）、etc

（液晶）iPad、iPhone、Galaxy Tab、タブレット PC、パソコン、携帯電話

## フォーマットは2パターン

雑誌、絵本、写真集（Win、Mac、iPad、Android、etc）

レイアウト保持が必須のもの、インタラクティブ要素が効果的なもの

**PDF、アプリ（iPhone、Android）** などなど

既に書籍で発行されているものはそのままPDFで発売されることが多い。

絵本、インタラクティブな書籍などはアプリ型もある。（元素図鑑など）

**小説など、文字が主体のもの（Kindle など専用デバイス）**

文字を読むためのもの。文字サイズの調整や、文字としてのデータ（読み上げ対応）が必要になるもの

**EPUB、XMDF、mobi、AZW** などなど

EPUB3 でようやく縦書き対応。

XMDF は以前から縦書き対応していたため、数多くの日本語書籍がある（青空文庫など）

AZW は amazon（Kindle）の独自方式で、入稿は epub や html でも可能。

epub 入稿が主体になっていくと思われる。

※固定レイアウトの Epub の議論もされている。

# DRM (Digital Rights Management) について

DRM とは、いわゆるコピーガード。

デジタルだからといって、好き放題にコピーが可能だったら、著作者にお金が入らない。

電子書籍では、電子書籍リーダーと電子書籍コンテンツを結びつけることによって、著作権保護を行っている。

**Kindle Store で購入した書籍は、Kindle (リーダー) でしか読むことができない。**

ただし、Kindle リーダーは、Windows や Mac 向けフリーソフト、iPad や Android 向け無料アプリなど、様々なデバイスで読書環境が用意されており、デバイスというよりも、アカウントに紐づいています。

iPad 販売で Kindle が打撃を受けるか、と思われたものの、逆に Kindle 書籍の売り上げが向上。

iPad (iPhone) の iBooks Store での書籍が汎用的な EPUB だといっても、DRM がかけられており、他の EPUB 対応 Reader で読むことはできない。

アプリ型も、環境が違えば別の購入が必要。(ストアごと)

また、将来的に動かなくなる可能性がとても高い。

## ユーザーの利便性を考えた DRM へ

ソフトバンククリエイティブから販売された書籍で体系的に学ぶ 安全な Web アプリケーションの作り方 (3360 円) という書籍がある web のセキュリティに関する技術書。良書で充実しているが、重い。ユーザーからのリクエストが多く、電子版が発売になる。

ブックパブにて

<http://bookpub.jp/books/bp/144>

購入すると PDF がダウンロードでき、最終ページには、名前とメールアドレスが埋め込まれる。

ユーザーは iPad に入れたり、PC に入れたり、好みの形で利用できる。

PC と iPad 両方に入れることも可能。

PDF は印刷不可、テキストコピー、検索可能。

定価 2800 円、キャンペーン期間 1800 円。

**ユーザーの利便性を損なわず、良心にゆだねられた、とても良い形の DRM**

(epub もテキストなのでこの形は実現可能だが、テキスト故に削除が簡単なのが難点)

## 今後課題となっていくもの

- ・ 著作権の保護

コピー保護の対応と、オープン化のバランス

- ・ デバイス毎の対応

ブラウザ戦争のようなことが起こり始めている

- ・ 課金方法

価格が安いので、直接回収は非現実的？ PayPal が普及すればハードルが下がるかも。

AppStore などどこかを通して販売するのが簡単。本屋と違い、登録が必要なのも抵抗感あり。

- ・ 制作側の対応

メーカー毎のフォーマットは高額な環境が必要な場合も。(今後の仕様変更の怖さもある)

以前の XMDF ビルダー、ADPS、MCBOOK、etc……